

ぷんぷん みよちゃん

【低学年 1 - 4】

動作化や役割演技を用いた指導

- (1) 主題名 素直な気持ちで [1 - 4]
- (2) ねらい うそやごまかしをしないで，素直な気持ちで明るく生活しようとする態度を育てる。
- (3) 資料名 「ぷんぷん みよちゃん」
- (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 みんなで歌を歌って，気持ちをほぐす。	元気よく，楽しく歌いましょう。	リラックスさせ，楽しい雰囲気をつくる。
展 開	2 資料を読んで，おかあさん，たあくん，みよちゃんがぷんぷんしているわけを話し合う。	<p>おかあさんとたあくんがぷんぷんしているのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みよちゃんがぷんぷんしているから。 ・みよちゃんが，あやまらないから。 ・みよちゃんが，人のせいになっている。 	<p>それぞれの場面の絵を掲示しながら資料を読み聞かせ，状況を把握しやすくする。</p> <p>それぞれの場面を動作化し，みよちゃんがぷんぷんしているために，みんながいやな気持ちになったことをおさえる。</p> <p>素直になれないで，ぷんぷんしているみよちゃんの気持ちにも共感させる。</p>
	3 みんながにこにこするためにはどうしたらいいか考え，役割演技をする。	<p>みんながにこにこするためには，どうしたらいいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みよちゃんが，言うことを聞いたらいい。 ・「よかったね。」と言ってあげる。 	<p>どうしたらいいか話し合った後，役割演技を行い，演じた後の感想を出し合う。</p> <p>役割演技を見た感想を交流し，素直になった方が気持ちがいいことをおさえる。</p>
	4 自分の生活を振り返る。	<p>ぷんぷんみよちゃんになったり，にこにこみよちゃんになったりしたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごめんね。」と言ったら気持ちがよかった。 ・注意されたのに文句を言ってけんかになった。 	<p>ぷんぷんしたり，にこにこしたりしたとき，どんな気持ちになったか思い出させる。</p>
終 末	5 みんなで歌を歌う。	・いつもにこにこしたいな。	楽しい雰囲気で終わるようにする。

ぶんぶんみよちゃん

みよちゃんは、げん気な女の子。

おべんきょうも、うんどうも、かかりのおしごと、いっしょうけんめいがんばります。こまっっているお友だちがいると、すすんでたすけます。

でも、みよちゃんは、おうちで「ぶんぶんみよちゃん」とよばれています。みよちゃんのかん字ノートを見て、おかあさんがいいました。

「みよちゃん、この字まちがってるよ。『白』という字のよこぼうが一本多いよ。」

「わかってるよ。ちょっとまちがえただけじゃん。」

みよちゃんは、ぶんとしていいました。

「まあ。」

おかあさんも、ぶんとしてしまいました。

みよちゃんのへやが、本やおもちやでちらかっています。

「かたづけなさい。」

おかあさんがいいました。

みよちゃんは、ぶんとしていいました。

「みよちゃんがやったんじゃないもん。たあくんがやったんよ、きっと。」

おとうとのたあくんのせいにしています。

「たあくんはおひるねしてるよ。人のせいにしないで。」

おかあさんも、ぶんとしてしまいました。

「おねえちゃん、ぼく、三十六かいなわとびできたんだよ。」

たあくんが、うれしそうにいいました。

「なによ、たあくん、いばらないでよ。みよちゃんなんか、百かいとべるもんね。」

みよちゃんは、ぶんとしていいました。

「ねえちゃんこそ、いばってるじゃんか。」

たあくんも、ぶんとしてしまいました。

ぶん、ぶん、ぶん。

みよちゃんも、ぶん。

おかあさんも、ぶん。

たあくんも、ぶん。

にこにこするためには、どうすればいいのかな。

活用に生かすための実践報告

「ぷんぷんみよちゃん」

1 主題の設定

・この資料の「みよちゃん」のように、注意を素直に聞けない、人のせいにしてしまう、強がりをしてしまうことは低学年の児童にはありがちなことである。そんなみよちゃんに共感しながら、楽しい雰囲気の中で、動作化などの活動を通して、素直にした方が互いに気持ちがいいんだと感じさせたい。

2 指導過程の工夫

・登場人物のにこにこ顔とぷんぷん顔の絵を用意し、表情を変えながら資料を読み聞かせて、楽しく状況を把握させる。他に、ペープサートや人形を使うなど、多様な資料提示の方法が考えられる。

・素直にする方が気持ちいいと感じさせるために、ぷんぷんするときの動作化、にこにこするための役割演技を取り入れ、比べて考えられるようにする。動作化や役割演技を隣同士などでやってみてから発表させることも考えられる。

3 発問の工夫

・動作化の後で「みよちゃんは、なぜぷんぷんしたのでしょうか」という発問では、「みよちゃん」を「悪い」ととらえるのではなく、その気持ちに共感させたい。

・生活を振り返る展開後段では、補助発問によって、そのときの気持ちや相手の様子について思い出させたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

【ぷんぷんしているみよちゃんの気持ち】

・間違えた漢字を直すのがいやだから。

・片づけるのが面倒だから。
・弟に負けたくなかったんだ。
・自分が年上だから、弟にぬかされたくないし、いばりたいから。

【みんながにこにこするためにどうすればいいか（役割演技）】

お母さん 「漢字が間違ってるよ。」

みよちゃん 「はい、直すよ。」

お母さん 「ていねいに書けたね。」

たあくん 「縄跳びが36回できたよ。」

みよちゃん 「よかったね。よくがんばったんだね。」

たあくん 「うれしいなあ。もっと練習するぞ。」

5 実践者からの一言

・登場人物の表情を変えたり、動作化を取り入れたりすることで、楽しく授業を進めることができた。

・自分の生活をふまえたうえで、ぷんぷんしてしまう「みよちゃん」の気持ちを考えられたようだ。動作化の中に、みよちゃんのようについぷんぷんしてしまう児童の実態が表れていた。また、どうすればいいか考えて役割演技をする中にも、児童の優しさが表れていて、和やかな雰囲気になった。素直にした方がみんなの気持ちがよくなることを役割演技を通して感じられたようだ。

・動作化や役割演技から、ねらいとする価値に迫れるように、演じた児童の感想や、見ていて気付いたことなどを出し合わせ、深めるようにしたい。

（地御前小学校 名越早苗）